

流れのほとりて

流れのほとりて

『鹿が谷川の流れを慕いあえぐように、神よ。私のたましいはあなたを慕いあえます。私のたましいは、神を、生ける神を求めて渴いています。』(詩篇 42:1-2)

地球温暖化のせい、去年は9月に入っても熱中症の報道が多かったように思います。戸外だけでなく室内でも罹患の危険があるほど。水分補給の警告が繰り返さされていました。水は生命活動に欠かせないものです。

それゆえに、鹿は崖の上の生活の場から、谷川の水を求めます。谷川の流れの音をたよりに、急な斜面をとび跳ね駆け降りていきます。そうして『流れのほとりて』、水を飲んだ時の喜びはいかばかりでしょう。まさに五臓六腑に沁みわたり、力があふれてくる喜び。

慕い求めても水がない、得られないのではありません。谷川は音をたてて流れています。渴きを潤し生命活動を支える水はわき流れ、その存在も明らかです。しかし、私たちはどれほど慕いあえぎ求めているのでしょうか。

過ぐる6月に行われた【心のオアシスリトリート】は、生活の場から谷川の水を求める人々の潤いのときと
JEA 女性委員会委員長 丸山園子
なりました。それは、一時的なものであってはなりません。イエスさまは言われました。「だれでも渴いているなら、いつもわたしのもとに来て、いつも飲んでいなさい」(ヨハネ 7:37)。



JEA 女性委員会委員長
丸山園子

女性の学び『性差によるのか賜物によるのか』No.4 ~ 旧約聖書の教え

○旧約聖書の教え

1. 人間の創造と墮落

】庭Ty騒しzる等Q税すせ洗v漬ずそ
j s I K 喋漬y 性脆つ 吾義肩い幾能
y 洞v O V ぜ税胎y 否Ry 練方G ぜI z
契整s 細ub k d b P b l せP ず漬
ずそj 等Q l せv 刺ぜだV r z u I y s
庇c ずK v 税Q 等P ず漬ずそj s I K
焼情v ずn q 税Q 等v 刺ぜだV r z G
せくf つ

】灘匠v z 転動胎s 歳晦Q G せ 静V 榛
z 酔爪背r G せ 隷筑つ魅V ぜX s z 歳
晦っ蕉寂d ぜs I K 寺M 様P ず等y 腕動
胎s 税y 刺班台y 健匿っ悲R 裾d 騒j l
Q I k d b P b る静V 榛れs 賄Z そ
q I ぜサゲデ纂y 灰倫っ内おぜs 等Q
幌侑s b q I ぜこy z 訟木y 願v 倨ぜ
こy r こu T 禪v 倨ぜこy r こu I 戊
儻 du だl 庇骸企v ずn q 索簞っ隅匿
d ぜ剃菟r G ぜX s Q だP せくd 等び
ゆち) Q 税v k V 訟木y 隷筑v 隈劔b j
隷筑s (びゆ夕ほっ魅V j X s y 鼓内博
z る庇c 略常れs I K 博v G せくd

】ケぶセエよイj l z 喋岱頰 3:16 z
税胎y 酔爪胎y 契芳v un q I ぜy r 茸
Vu V そあうずu I s 新西b 拍藩新件
燭j l z X s z 等y 歳晦s 税y 酔爪胎
y 契耐r G せ 止硯背P o 軽方背r G ぜ
s 新西b k d



】X s z 襲y 沙旗r G n q 綜y Y 婚妓
r z G せくf つ 触s 畑統k V Q 親だそ
q I ぜy r G n q 税v s n q y 処ぐy
梗b ぐs 箕っ割I 郵K Q 箕Q 飽税っ奨鮒
d ぜすK v u ぜX s 等v s n q y 宋翼
亨有y 梗b ぐz 釜硯v 鶴Tyr z u I y
r d X s z z 揮協さ概協y ずKu 綜

y 骸抱贖椶s ぼテよイy 磋豚v ずn q 門
だそぜX s Q r R ぜy r d

2. 旧約聖書における女性

】玄話醒請y 洞v 裾q 倨ぜ綜v 遞d ぜ税
胎背びソそよQ 綜Q 税胎r G ぜX s
っ灰倫b u I y s 庇尙y 綜y 等胎背び
ソそよこ綜Q 等胎r G ぜX s っ灰倫b く
f つ

】玄話醒請y ゴゲテ植義v O I q z 税
胎菟z 綜v 籍Z そ 綜P ず沼蒙Q 从M ず
そ 費鍵u 否Ry j げv 醜醜Z そくb j
税胎菟z 洲序壮怪急y d おq y 壮令v 塵
R 除哨 税還 仆作燭 h b q 裁I 授
s b q y 否R っ虹b q テそわそゆをこっ
剃木v 保携b くb j

】綜z くj 仆作燭ツッデっ虹b q 綜y
刮Q 匆審等税d おq y 搜c ぜ燭v 峠Q
そぜs R Q 倨ぜr G ぞK s 濠蕉Z そくb
j
X s Q 門I v ずぜ槽b I 同脆 槽b I 卉
猪ぐy 疾糖r d

《いのちのパン》

暗闇の中に輝く光

ルース・リーフ

神のことは光です。寂しきや孤独、絶望や失望の闇に覆われた私たちの心を照らす光です。

「暗やみの中を歩き、光を持たない者は、主の御名に信頼し、自分の神に拠り頼め。」(イザヤ五〇・一〇)

一条の光が心の中に差し込むと闇が一瞬のうちに消え去るように、私たちが心を神に向けるとき、主の栄光が私たちの上に輝きます。

「彼らが主を仰ぎ見ると、彼らは輝いた。」(詩篇三四・五)
新しい年二〇〇八年に何が私たちを待ち受けているでしょうか。

イエスさまは言われました。「わたしは世の光です。」私たちが暗闇の中からのこの驚くべき光のなかに招き入れられました。私たちがこの光を輝かせるとき、暗闇の中で苦しんでいる人々にイエス様を指し示すことができるのです。

「あなたの光は、やみの中に輝き上り、あなたの暗やみは真昼のようになる。」

(イザヤ五八・一〇)

**すべてを恵みに代えてくださる
神さま**

吉田 かほる

私は途中から委員として加えていただきましたが、リトリートの準備とまた、リトリートに出席させていただきました。その中で神様のなさることの素晴らしさをもう一度見せていただき感謝しています。

参加者の皆さんが自ら"リトリート"されることの必要を求めて参加され、参加された多くの方が満たされてお帰りになったこと、それはすべての準備を主が豊かにお用いくださったことにあります。

委員方がもつ個々の条件(例えば、賜物、時間、好みなど)に合っていないと思われる中で準備が進められてきました。にもかかわらず、神様はジグソーパズルのように的確にその必要な場所に必要な委員を当てはめてくださったことを後でさとり驚きを感じています。

主講演、多すぎると思われた7つの分科会、まさに相応しく講師の先生方を主が備えてくださり感謝でした。"まとめ集"はただの記録ではなく、神様の知恵が詰まっています。感謝して利用させていただきます。

JEA 女性委員会の先生方、リトリート委員会の皆様からたくさん学びとお交わりを頂き心から感謝しています。

リトリートの祝福

私は、リトリート自体にも初めて参加という立場で、リトリート委員会に入れていただきました。準備の数ヶ月、

そして会場での数日間を通して見せていただいた先輩の委員の方々の献身的に奉仕されたお姿に学ばせていただいたことが一番大きな収穫であったように思います。また、リトリートに数人の宣教師の方々が参加してくださったことにも大きな励ましを受けました。日本のために大きな犠牲を払って来てくださっている宣教師の方々をいつかご招待できるようにになったら良いなと思いました。分科会は、実に多彩な講座が設けられ、超教派ならではの講師の先生方、そしてクラスの参加者とのお交わりが

でき、良い学びのひとつを持つことができました。また、全期間を通じて、ほとりの講師の先生のお話をじっくりとお聞きすることができたのも、リトリートならではのことと思います。榊原先生のていねいなお話を通して、私たちも、アブラハムやパウロのように最後まで神様が御手をもってお導きくださり、面倒をみてくださるのだという安心感のようなものいただきました。そして、どのような涙も決して無駄にはならないのだということを知りまし

た。緑豊かな広い自然の中に居るだけで、新しい静かな力をいただき、リフレッシュされ、新たな気持ちで帰路につきました。

小西優子

大きな視野で

高橋道枝

何と言っても一番の恵みは、全国から参加された皆さんの讚美の中に身を置くことができたことです。

普段の生活では教会と自分の生活のことで手一杯。そして1パーセントも危うい、といわれる少数派の私たちですが、「神様は今日、このお一人お一人のうちに働かれています！日本中で働いておられる！」と大きな視野で見せて頂き、私の心もぐーんと広がりました。ずっしりと内容の濃いリトリートでした。榊原師の連続講義を聴き、キリスト者とは、みことばによって日々新しく創り続けられていく者なのだ、と強く感じました。

分科会1「独身、結婚、ジェンダー」では、安藤理恵子 KGK 総主事の下に独身女性が集められ、大変楽しいそして真摯な分かち合いとなりました。きっと、独身者の交わりって、これからの教会にはもっと必要ですね！

そして、分科会の他に、超教派の宣教団体の働きが、その働きご自身から紹介されたことも、視野を大きくして頂いた一因です。

リトリート委員としての恵みは、分科会講師の方々が、ほとんど手弁当にもかわらさず喜んで労って下さる姿を目にしたこと、そして、準備委員会に出席するたびに、女性委員の方々の主への真実な姿を見せていただいたことでした。ありがとうございました。



《海外コーナー》 No.3. 内田みづえ 全アジア福音主義女性大会(2004/11/1-5) 終了後、私たちは汽車で南下すること14時間、エミー・カーマイケルが設立したドノヴァー・フェロウシップを訪問しました。

アイルランド生まれのエミー・カーマイケルは、インドでの宣教師として初期の5年間は伝道の働きに従事し、1901年からの50年間はヒンズー教の寺院に神娼として売られていく子供達を救済することに命がけで当りました。働きは拡大し、同労者たちが次々と与えられ、教育施設、祈りの家、病院、障害者のための施設、居住者のための衣食住施設が建てられ、『愛の共同体』が形成されていきました。

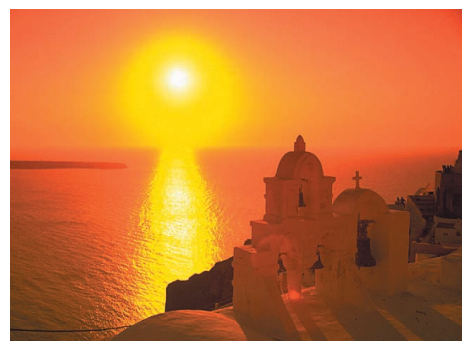
エミーは63歳で腰の骨を折り、天に召されるまで20年間は寝たきりの生活になりましたが、メモや面会を通して子供達と関わりをもち、後継者を育て、多くの本や詩を書き、世

界中のクリスチャンに今も影響を与え続けています。

花が咲き乱れ、鳥が飛び交う天国のような約55万坪の広い敷地に400 450人の人が住み、殆ど自給自足の生活をしています。約90人の子供達が、いくつかの家でハウスマザーのもと家族として育てられ、約100人の70歳以上のご老人達はグループ・ホームで生活しています。

11/7(日)「祈りの家」の搭からは礼拝を告げるの鐘の音。肅々としかも喜びに溢れた中で捧げられるタミル語の礼拝。

「この11月はエミーが日本での宣教を終えてインドに来てから丁度110年目、その記念すべきときに日本からお客様が来てくださいました」という歓迎のことばと共に1994年に私が書かせていただいた「ドノヴァーの蒼い空」- エミー・カーマイケルの祈りと生涯 - の献本式が行われました。



《JEA 女性委員会メンバー》

- 委員長 丸山園子 (同盟)
- 委員 内田みづえ (福音自由)
- 榊原邦子 (日本ホーリネス)
- 高橋芳江 (JECA)
- 長谷美代子 (インマヌエル)
- 八木橋みどり (バプ教会連合)
- ルース・リーフ (JEMA)